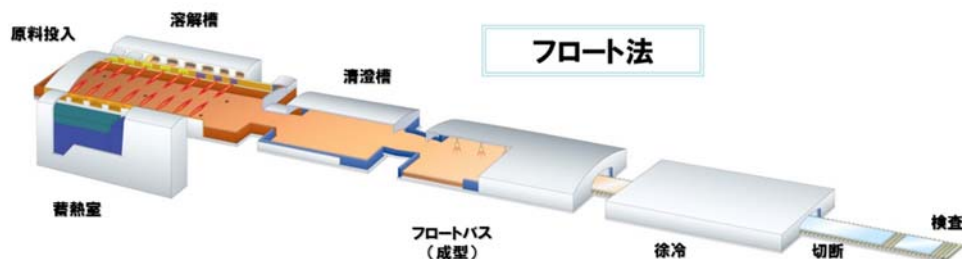


AGC 旭硝子の導光板用ガラス XCV™ が Display Industry Award を受賞 — 今後はガラス製導光板への加工も行い、スタイリッシュなテレビの普及に貢献 —

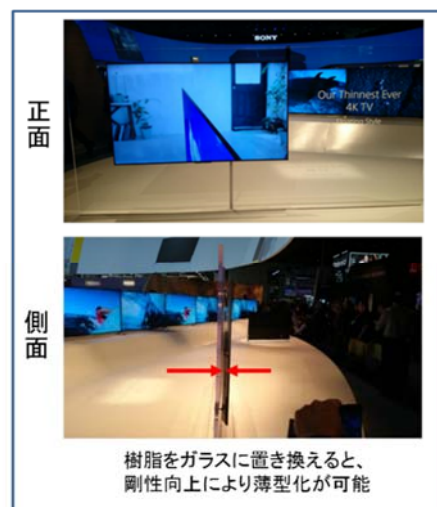
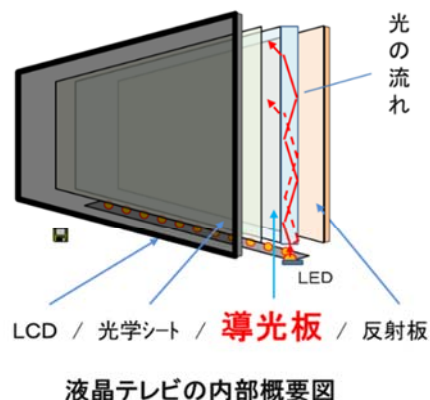
AGC旭硝子（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：島村琢哉）の、液晶テレビ・ディスプレイ向け導光板用ガラス基板、XCV™（エクシーブ）が、世界最大のディスプレイ学会である、Society of Information Display(SID)から、第 21 回Display Industry Award(DIA)を受賞しました。

これまで導光板には、光の透過率が高い樹脂が使用されてきましたが、物理的な強度や、湿度や熱による膨張等の樹脂の問題点を、テレビの筐体を強化し、様々な付属品を用いることで解決してきました。一方テレビを薄型化したり、額縁をできるだけ小さくし、スタイリッシュなデザインを実現していくには制約となっていました。

AGC旭硝子は、ガラスを導光板に使用する上での大きな課題であった光の透過率を高める事に成功し、更に、導光板に求められる 1.5～2.5mm程度の厚みのガラスを非常に効率良く生産できる、フロート法での量産プロセスを確立しました。



XCV™（エクシーブ）を用いたガラス製導光板は、十分な物理的強度があることと、湿度や熱による膨張等が大変少ないことが特徴です。これによって、厚さわずか 5mmで額縁が小さい、スタイリッシュなデザインのテレビを実現できるようになり、2015 年には、世界で初めて大手テレビメーカーに量産採用されました。



◎ 本件に関するお問い合わせ先：

AGC 旭硝子 経営企画部 広報・IR 室長 小林 純一

（担当：鳥山 TEL: 03-3218-5603 E-mail: info-pr@agc.com）

今後 AGC 旭硝子では、ガラス製導光板の導入・採用を容易にするために、導光板用ガラス基板、XCV™ に、ドットパターンの印刷等の加工を行い、ガラス製導光板として販売していく予定です。



加工前	加工後
導光板用ガラス基板	ガラス製導光板

テレビが、単なる娯楽と情報収集の電気製品から、壁に掛けられた絵画や、風景を写す窓のような、スタイリッシュなインテリアの主役へと変わっていきます。AGC 旭硝子は XCV™ 及び、ガラス製導光板の拡販を通じて、その普及に貢献してまいります。

AGCグループは、経営方針 **AGC plus** の下、世の中に「安心・安全・快適」を、お客様に「新たな価値・機能」を、プラスする製品づくりに取り組んでいます。今後もディスプレイ部材のリーディングカンパニーとして、お客様に満足頂ける、新たな価値をプラスした製品をご提供できるよう技術革新を進めてまいります。

以 上

◎本件に関するお問い合わせ先：

AGC 旭硝子 経営企画部 広報・IR 室長 小林 純一

(担当：鳥山 TEL: 03-3218-5603 E-mail: info-pr@agc.com)